

日本史B

【解答】

I

解答1	解答2	解答3	解答4
e	b	e	c
解答5	解答6	解答7	解答8
b	f	d	a

II

解答A	解答B	解答C
平将門	藤原純友	ラクスマン
解答D	解答E	解答F
レザノフ	風土記	万葉集
解答G	解答H	
井伊直弼	桜田門外	

III

問1
御成敗式目は源頼朝以来の先例や、道理と呼ばれた武士社会での慣習・道徳にもとづいて、 <u>守護や地頭の任務と権限を定め、御家人同士や御家人と荘園領主とのあいだの紛争を公平にさばく基準を明らかにしたもので、武家の最初の整った法典であった。</u>
問2
改革の中心人物は老中 <u>水野忠邦</u> であった。上知令は、江戸・大阪周辺の大名家や旗本の <u>知行地を没収して直轄領としようとしたものである</u> 。しかし、 <u>諸大名や旗本に反対されて実施できず、これを契機に、忠邦は失脚した</u> 。改革も失敗し、 <u>幕府権力の衰えを示した</u> 。

【学習アドバイス】

本学の入試は、4科目の選択科目の中から2科目を選択して受験する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となっている。各科目にかける時間配分は、出題の分量にもよるが、1科目につき50分前後の時間を解答時間として考えるべきであろう。

2021年度の問題は、「9世紀末から始まる地方政治の混乱」から、「満州国建国」までが出題され、古代・中世・近世・近代とバランスのとれた出題内容となっている（2020年度は「6世紀のヤマト政権の発展」から「大正時代の社会運動」まで）。分野では政治史を中心に、外交史・文化史・テーマ史で構成され、大問Ⅲは語句・人名の選択による空欄補充形式、大問Ⅱは語句・人物の記述による空欄補充形式、大問Ⅰは120字程度の論述2題の構成となっている。

本学を目指す受験生は、全時代の学習が必要不可欠となる。政治史中心の出題になっているが、政治史に偏ることなく、政治史と関連させて外交史・文化史・テーマ史・社会経済史の学習が大切になってくる。

出題形式は、選択式・記述式が併用されている。選択式は語句の空欄補充、記述式は空欄補充・120字程度の論述に採用されている。問題のレベルは、高校の教科書・用語集の範囲内の標準的なものとなっている。特に選択形式の語句空欄補充問題では、空欄数に対して選択肢が多いので、迅速かつ確実に正解が導き出せるよう、一問一答集などを利用して、普段からの丁寧な学習を心がけよう。記述式の空欄補充問題も出題されている。出題されている語句は、全て教科書の太字の箇所であり、正確な漢字表記の解答を求められているので、一問一答集を利用する際に、語句を目で見ただけでなく、手を動かして語句を覚えていこう。またこの空欄補充形式の出題は分量が多くないので、あまり時間をかけないようにすることも重要である。

日本史で高得点を取るためには、教科書・塾や予備校のテキスト・用語集を活用しながら、語句・人名などの用語に関して、「誰が」「いつ」「どこで」「何をしたか（なぜそうしたか）」を重点に置きながら進めていくとよい。そして最後に「どのような結果になったか」「どのような影響を与えたか」まで吸収することで、さらに知識・理解が深まっていく。そのような学習は、本学の論述問題に確実に生かされてくる。

本学では、120字程度の論述問題が2題出題されおり、論述問題の成否が合否を大きく左右するだろう。2021年度は、「御成敗式目の内容」と「天保の改革における上知令の内容ともたらした結果」が出題されている（2020年度は、「株仲間解散令の狙いとその効果」「壬申の乱の結果と意義」）。本学の論述問題は、主に「事項に関する内容・結果」についての論述であるため、吸収した知識を「誰が」「いつ」「どこで」「何をしたか（なぜそうしたか）」「どのような結果になったか」「どのような影響を与えたか」という形にならぬとよい。受験の基本となる教科書は、そのような流れで記述されているので、太字以外にも注して、熟読することが大切だ。そしてその内容を自分なりにまとめてみるとよいだろう。論述問題は一朝一夕での対応は難しいので、早めの着手が望ましい。論述問題のトレーニングとして、高校や塾・予備校の先生に基本的なレベルの用語の課題を出してもらい、添削指導をしてもらうのが最も効果的な論述対策である。最初は少なめの字数から始めて、徐々に120字まで字数を増やしていくといいだろう。それを繰り返すことにより、論述問題に対する不安が大きな自信へとかわり、合格へ大きく近づくことになる。

以上のような対策を着実に積んでいけば、必ずや良い結果が出るであろう。